

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501411		
法人名	社会医療法人 共栄会		
事業所名	グループホーム まいホーム川北 A館		
所在地	札幌市白石区尾川北2条1丁目7-8		
自己評価作成日	令和5年9月2日	評価結果市町村受理日	令和5年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナ禍以前は、地域との関わりを持ち町内会のゴミ拾いや、お祭りに参加する等、社会から孤立せず、地域と繋がる事に力を入れてきた。一時頻度が減ったものの5類に引き下げになった今、また町内会行事に参加するなどしていききたい。中断していたふるさと会の丁稚奉公も再開していききたい。
 ・コロナ禍で外出行事が出来ていなかったが、現在は少しずつ企画出来る様になった為、以前の様に外出を楽しんでもらえる様に企画していききたい。ホーム内行事はお祝いの料理やカードを用意するだけでなく、皆でゲームをする時間を作るなど楽しんで頂けるように工夫しています。
 ・母体の病院や訪問看護、デイケアと連携しており、ホーム内だけではなく安心して活動的に暮らす事が出来ています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190501411-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年10月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示しており、日々目にすることが出来ており、理念を共有し実践につなげられている。また、毎年ユニットの目標を立て達成出来るように中間で確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一時はコロナ禍だった為、地域行事への参加も出来なかったが、現在は町内のゴミ拾いに参加し地域との交流が再開し始めている。これからはコロナ禍の前の様に地域との繋がりを持って行きたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍だった為、普段行っている丁稚奉公は出来なかったが、これからは感染に気を付け以前の様に丁稚奉公など再開していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍だった為、職員以外の参加が難しいこともあったが、出来る限り少数でも地域包括支援センターや、町内会の方に参加して頂き、意見交換をしてサービスに活かせるように努めた。また、事前に電話確認などで意見を求めるように努めた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員が市町村担当者と直接連絡を取る事はないが、ホーム長が連絡を取り、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催したり、研修を行い、学びや確認の場があり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、夜間のみ防犯の為施錠しているが昼間は玄関を開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で研修・勉強会・小テスト等を行っており、理解を深める事が出来ており、虐待防止につながるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修機会が無く、職員が自立支援や成年後見人制度を学ぶ機会が少ないが、今後自ら学ぶ姿勢を持って行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍だった為、ホーム内の見学は短時間しか取れず難しかったが、電話対応や玄関先ではあったものの十分な説明をして納得いただけるように務めた。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍だった為、ご家族がホームに来られる事は少なかったが、来訪された際や電話での近況報告の際に、意見や要望があればホーム長に報告し運営に反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者に直接会う機会はなかったが、管理者に意見を伝えたり相談が出来る環境にある。また、責任者会議などで意見交換するなどの機会はある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休については希望を取り入れてもらえる事が出来ており、時間外勤務もない為働きやすい環境にある。また定期的にストレスチェックを実施できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍だった為、外部での研修参加の機会はなかったが、代わりにリモートやネットを介した研修を受ける事が出来る環境にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍だった事もあり外部の同業者との交流機会はなかった。が、法人内の訪問看護やデイケア職員との関わりはあり、情報交換などを通じサービス向上に向けて努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のフェイスシートやご家族のお話から情報を集めてご本人の人柄や生き立ち等を把握し、安心して新しい環境で生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談等で要望を聞くだけでなく、入居後も電話連絡等で対話する機会を作り、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの意向を伺い、必要な支援を見極めるように努め、必要であればディケア等を利用できるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、やりたい事を見極めそれを実行出来る様支援し、出来ない事をサポートしながら信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍だった為、面会の機会を設ける事は出来なかったが、毎月のお便りや電話連絡で近況を報告して情報の共有を図り、必要に応じご家族の協力を仰ぎながら本人を支えていく関係を築くよう努めた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍だった為、直接の面会は出来なかったが電話やお便りで近況報告をしていた。外出は受診等、最低限の外出しかできなかった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑に行くように職員が間に入るなどの支援をしている。また、孤立しないよう注意を払って関わるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には次の生活の場にこれまでの生活状況などを伝え、スムーズに新しい環境に慣れて頂ける配慮をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からご本人の思いを汲み取り、出来るだけ希望に沿える様に努めている。環境的に難しい場合でも本人本位に検討する様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートやご家族、または本人より話を聞き取り、これまでの経過などを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、一人ひとりの記録をしており、現状の把握に努めている。記録や引継ぎにより職員間で情報共有する様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には電話やお便りをする際に情報交換する様に努め、職員間では毎月会議をしてケアに反映出来る様に話し合い、ご家族の意見も取り入れて介護計画の実践や見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや毎日の個人記録を元に、本人の現状把握に努め、些細な変化も職員間で共有しケアの実践に活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの協力も得て、本人が希望する外部受診などに対応したり、法人の車両の利用や訪問看護・デイケアの利用等柔軟に支援が出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	札幌市のオムツサービスや訪問理容を利用したり、推進会議時に包括職員や町内会役員と情報交換するなど資源活用に向けて努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、ご本人や家族の希望に沿える様支援している。また、受診の際はご本人の状況がわかるように血圧表を添付したり生活状況を記載した受診表を作成し適切な医療を受けられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師なので、気づいたことは報告、相談している。また法人の訪問看護を利用し、病院との連携もとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、介護添書を作成し情報を提供している。また、適時状態を確認して、現状の把握とその後の支援方針等に活かしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでは看取りは行っていないが、ホームを退去した際は、母体の病院に入院できる体制がある。また終末期のあり方については、家族と管理者が方向性を話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがありいつでも目にする事ができる。ホーム内にAEDを設置しており緊急時に対応出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に入居者を交えての災害避難訓練を行っており、参加できなかった職員は結果を確認出来るように周知している。また非常食もローリングストック方式で備蓄している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けを行っているが、家族のような言葉かけを喜ばれる方もいる為、一人ひとりに合った声掛けをする様努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望が表せられる、話しやすい環境を作れるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にし出来るだけ、本人の希望に沿える様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用したり、好みの服装が出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナが流行した為衛生面に注意を払わなければならないが、一緒に食事の準備は行えていないが、ホームの畑の野菜と一緒に収穫し食事時に提供して話題にしている。献立は季節の食材を取り入れるようにし、誕生日にはその人の好きな献立にする様にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や内容等、一人ひとりに合わせ提供し毎日の個人記録に食事・水分量を記録し十分量摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔の清潔を保てるように声掛け・見守りを行っており、自分で出来ない場合には職員が援助している。又、夜間は義歯洗浄剤を使用し、定期的に歯科受診し義歯調整や歯石取りも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた声掛けやトイレ誘導をしている。又、排便チェックもして出来るだけ排泄の失敗が少なくなるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し乳製品を提供したり、下剤の調整や毎身体操して運動する機会を作るなどして便秘に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕方以降の入浴は職員の人員問題もある為行えていないが、個々の希望を聞き好きな時間に入浴出来る様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のご自身のペースで入室し休息を取ったり、疲れている様子があれば臥床を促している。夜間は一人ひとり就寝時間が違う為、本人のペースに合わせて就寝出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての個人情報をファイルにし薬の用法や副作用等の情報を共有出来ている。また症状に変化がないか観察し、何かあれば医師に連絡や相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴から出来る事を活かしてお手伝い等をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍だった為、外出は出来なかったが、現在は近所の散歩から始めている。また、感染対策に基づいて法人のデイケアを利用し気分転換を図れるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を使用する機会は提供出来ていないが、手元に所持している利用者様はおり、お金を持つ事で安心感を持って過ごして頂いている。職員はお金を持つ大切さを理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば管理室の電話を使用して頂いている。手紙が届いた場合は、手紙を書けない代わりに電話を取り次いだりする支援はしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度・温度計を設置し定期的に温度・湿度を確認して、ぬれタオルを設置したり冷暖房を調節したり、テレビの音量調整・室内の明るさ等も含め、快適に過ごせる様に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所に決まりは無く自由に過ごして頂いているが、利用者様のなかでは座る場所が決まってしまう場合もある。広い空間を確保できず1人でのんびり過ごしたいときは自室で過ごして頂くなど状況に合わせた配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみのある物や愛用している物を危険がない範囲で設置して頂いている。また安全に過ごせるように家具の配置をする様に心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースに分かりやすい様に張り紙をしたり、歩行しやすい様に手摺を設置し動線は広く取って安全を心掛けている。床はバリアフリーになっており玄関先はスロープがある。		